

(2) 小麦品種「きぬあかり」の多収かつ高品質化を目的とした施肥体系

小麦品種「きぬあかり」は、白ふで製めん適性が高く、収量性と耐湿性に優れる。「きぬあかり」の暫定施肥体系として10aあたり窒素施用量で基肥：8kg、追肥①(分げつ開始期)：2kg、追肥②(茎立ち期)：4kgの8-2-4体系を示していたが、蛋白質含量が品質評価項目の許容値である8.0%を下回る場合があった。そこで、新たな施肥体系として、追肥①を4kgに増量した8-4-4体系を設定し、2011年産から2013年産において試験場内試験ほ場で検討した。また、2013年産では、「きぬあかり」の施肥量の上限值を明らかにするため、追肥①と②についてそれぞれ6kgまたは8kgに増量した施肥体系についても検討した。

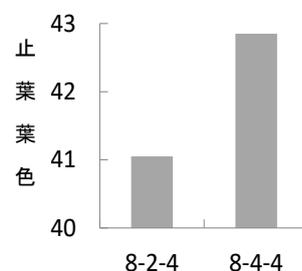
止葉葉色は8-2-4体系では41.1だったのに対し、8-4-4体系では42.9と高くなった(図IV作-3)。穂数、精麦重は8-2-4体系では402本/m²、506kg/10aだったのに対し、8-4-4体系では447本/m²、525kg/10aとそれぞれ高くなった(図IV作-4)。また、8-4-4体系では蛋白質含量も9.1%と高く、外観品質は1等相当であった(図IV作-5)。

施肥量の上限值を明らかにするため、追肥①と②を6kgまたは8kgとした場合は、いずれも蛋白質含量が10%を超えた(表IV作-2)。なお、外観品質は規格外相当であった。

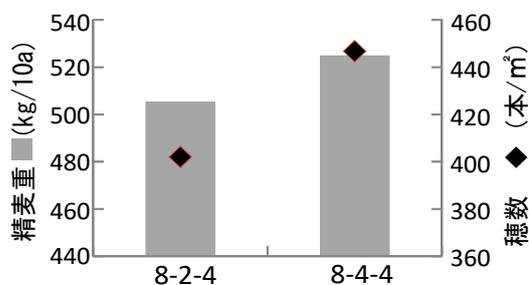
以上の結果から、「きぬあかり」の施肥体系は8-4-4体系が8-2-4体系に比較し収量性と蛋白質含量の面で優れていること、追肥①および②を過剰に施用した場合は、外観品質が低下する傾向にあることが明らかとなった。

場所	施肥体系	精麦重 kg/10a	子実蛋白質含量 %
作物研究部	8-4-4	578	9.2
水田ほ場	8-6-6	680	11.2
	8-8-8	639	10.8

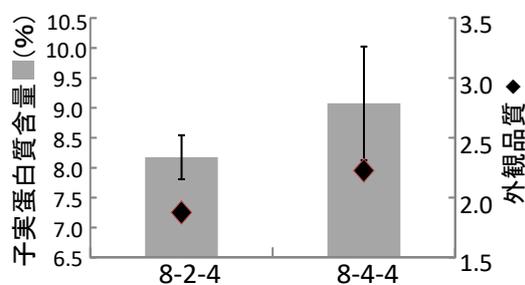
2013年産、



図IV作-3 穂揃期の止葉葉色
2011~2013年産、11月上旬播種



図IV作-4 精麦重と穂数
2011~2013年産、11月上旬播種



図IV作-5 子実蛋白質含量と外観品質
2011~2013年産、11月上旬播種
品質は、2.5:1等下限、3.5:2等下限